

處女は悲し

帝キネ

現代映畫

原作者 東山住人
脚色者 穴道武郎
監督者 深川ひさし
撮影者 高橋武則

——主要役割——

實業家笠島敬介 三浦木信子
その娘千鶴子 嵐崎静徳子
實業家芹澤順造 尾崎静子
その妻登美 高津愛子
その息敬夫 川田修子
姉娘勝子 歌路英子
妹娘秋子 藤岡林太郎
自稱子爵 綾小路春彦 濱田格
銀行員津田榮太郎 演 岡林太郎

略筋——千鶴子の父啓介は彼女を實業家芹澤順造に托し淋しく異郷の空へ志した。芹澤家にある千鶴子は夫人登美子及姉娘勝子の日々の虐待に悲しんでゐたが、一方息子敬夫と妹娘秋子との肉親も及ばぬ親切を感謝してゐた。勝子は自稱子爵綾小路春彦を戀してゐたが、彼が千鶴子を戀してゐる所から登美夫人と計り千鶴子を芹澤家から除外すべく銀行員津田に嫁がせんとした。しかし義理堅き順造は敬夫と千鶴子を結婚させやうと決心してゐた。折柄敬夫死去の報は來り、千鶴子は悲しみのあまり父の後を追はんと家出した。その途中綾小路に誘拐され一室に監禁されたが敬夫の知る所となり彼は春彦と争闘の末千鶴子を救ひ得た。かくて前非を悔いた登美夫人、勝子の温情に千鶴子は順造一家の人となり惠まれた生活に入つた。

解説——深川ひさし氏の「御意見無用」に次ぐ作品である。